

問一

相手に応じた言葉の使い方として、適切なほうに○をつけましよう。

① 教頭先生が、教室に () 来られた。
() 来た。

② お客様から、おみやげを () いただいた。
() もらった。

③ 妹が、習字道具を () 貸^かしてくださった。
() 貸^かしてくれた。

④ 先生が、プリントを () 配^くられた。
() 配^くった。

⑤ となりの席の子が、消しゴムを () 拾^{ひろ}ってくださった。
() 拾^{ひろ}ってくれた。

問二

敬語の使い方として、適切なほうに○をつけましよう。

① 校長先生が、手紙を () くださる。
() おくれになる。

② わたしが、その本を受け取りに () 行かれます。
() うかがいます。

③ 夕食の用意ができたので、 () 食べなさってください。
() めしあがってください。

④ 社長が、新聞の記事を () ごらんになる。
() お読まれになる。

⑤ 明日、町長が学校に () まいられる。
() いらっしゃる。



「お読まれになる」は「お読みになる」と「読まれる」という2つの敬語が重なっている、いわゆる二重敬語と言います。使わないように気を付けよう。

自分より目上の人に対しては敬語を使うよ。逆に自分と同じ立場の人や家族には敬語を使わないのが一般的だね。

